

理事長挨拶



みなさまこんにちは

ようやく緊急事態宣言が解除され、不自由な生活から解放された影響か、感染者が徐々に増え続けているのが大変心配になります。ぱれっと事業も、通常に戻るまで時間のかかることが予想され、どのセクションもソーシャルディスタンスを確保しながら日々の業務についております。

さて、先月号のつうしんをお休みし、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。つうしん発送作業の密を避けるため、発送ボランティアの方や職員にお休みしていただき、ぱれっと事業開始からはじめてつうしんの休刊を余儀なくされました。今後は、感染リスクを抑えることに努力し、発送作業を継続していくよう心掛けたいと思っております。

最近のセクションの状況をお伝えいたします。

《たまり場ぱれっと》

毎月の外出プログラムや各種クラブ活動及び宿泊行事はすべて見送られています。たまり場活動はどうしても人との接触が避けられないため、ボランティアミーティングもWEB会議の形で隔週行なわれています。高校生、大学生など若いボランティアも入ってきていますが、実際に活動がされていない状況で、いかに利用者の方と心が離れないよう、ボランティアのモチベーションを維持するか、OB・OGも参加しながらアイデアを出し合っています。

《おかし屋ぱれっと・工房ぱれっと》

3密を避けるために利用者的人数を制限し時短で作業を行なっています。徐々に注文も入ってきており、企業販売も限定的に再開し活気が出てきています。

《えびす／しぶや・ぱれっとホーム》

入居者の方の通所もはじまり、長い間のご自宅やホームでの待機生活から解放され、体調も崩さず生活されています。スタッフ不足は続いておりますが、アルバイトの方も戻りつつあり、常勤スタッフの負担のない働き方改革が推進されています。

《ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ)》

モンゴル交流プログラムは延期されていますが、WEBミーティングが開催され、現地NGOグループ(APDC)と組織運営における意見交換がなされています。

《いこっと》

いこっとサポートの会では、11年経過しこれからの運営の在り方について活発な議論を重ねてきています。入居者どうしのコミュニケーションや障がいのある方の健康面での側面的サポート、新規入居者募集など、広報活動にも力を入れていく考えでいます。

(理事長 相馬宏昭)